

# 河川環境管理財団ニュース

News Letter from Foundation of River & Watershed Environment Management

## ニュースの項目

河川管理と情報

「森と川と水源地のものがたり」  
ミュージカル留萌公演の開催

「河川における生態系と水質の相互的な関係に  
関する研究」始まる

「川の生き物と環境を考える教室」を開催

富士川水系河川整備計画策定に向けた  
動きについて

「多摩川源流教室」開催

久慈川における河川整備基本方針、河川整備計画  
に向けた地域への取り組みについて

としかんべつ  
問寒別川自然観察会の開催

荒川下流における清流復活、水質浄化への  
取り組み

「海辺に親しむー海岸を知り、楽しむための  
ガイドブッカー」発行

「湖沼管理のための流動機構調査」講演会開催

第10回 河川整備基金助成事業成果  
発表会の開催

淀川水系桂川での工事に伴うオオサンショウウオ  
生息実態調査について

河川整備基金事業「栄養塩類濃度が  
河川水質環境に及ぼす影響に関する研究」  
成果発表会の開催について

「子どもの水辺」大阪連絡会の設立に向けて

第23回 川の写真コンクール表彰式及び  
展示会の開催

世界子ども水フォーラム・フォローアップ in  
広島が開催されました

河川環境展覧 '03 に出展

世界子ども水フォーラムが開催されました

「新刊発行」案内

川の博物館展示施設の充実

河川整備基金にご協力ありがとうございます

s「第1回 集まれ！水夢きっず」企画部門の  
夢実現する

財団の体制

第3回 川に学ぶ体験活動全国大会  
(徳島大会)開催

# 河川環境管理財団ニュース

News Letter from Foundation of River & Watershed Environment Management

## 河川管理と情報

今年の4月、国土交通省の出先機関である工事事務所が 事務所に名称変更されました。河川管理理念の方向が、大きく変わりつつあることの象徴的な出来事といえましょう。河川行政は、旧河川法(明治29年制定)以来、治水・利水という社会基盤整備に重点を置くもので、それに適合する形で河川管理組織も技術体系も組み立てられてきました。平成9年の河川法改正では、河川法の目的に、治水・利水に加え「河川環境の整備・保全」が位置付けられました。環境という項目の参入により、従来の河川管理組織や技術の中に環境という価値を取り込む作業が取り急ぎ行なわれ、また、行なわれつつあります。この変化は当然必要なことですが、私には二義的なことのように思われます。

より本質的な問題は河川工事事務所から河川事務所に変わったことにあるように考えます。河川管理は、流域の安全(利水を含む)の質・環境の質・河川の適正な利用状況を監視(モニター)し、質の維持を図りながら、この質と状況を地域に開示し、地域の人々に流域の過去・現

状を理解してもらい、その上で地域の意見要望を取りいれながら、次の河川管理のための行動指針を確定していくことが河川管理の仕事となるのです。当然、日常的行為である前者が適切でなければ後者は適切なものになりません。だとしたら、この一連の管理行為を遅滞なく、連続的に実行し得る河川管理組織とそれを支える技術と情報システムが強く求められます。「工事の技術体系から管理の技術体系へ」が河川技術界の当面のスローガンです。

目的別に分断化され、しまい込まれた河川管理に関わる情報を、いかに収集・編集・ストック・流通させ、統合化・総合化を図るか、さらに表出された情報を意味あるものに読み解ける組織体をどのように作り上げるかの検討が必要です。当財団河川環境総合研究所においても、このことを強く意識しながら河川管理のための情報を生産・編集していきたいと考えています。

河川環境管理財団 研究総括職

山本晃一

## 「河川における生態系と水質の相互的な関係に関する研究」始まる

魚類に代表される河川の生態系は、河川の流れの場の他に、水質を基礎として、プランクトン、底生生物、水生生物などの階層構造の上に成立していますが、この生態系の構築に対する水質成分の複合的な影響についてはこれまで十分に明確にされてません。また一方で生態系の一部を構成する植物プランクトンや動物プランクトンは河川の水質に大きく影響しており、水質成分の多くを構築しているといっても過言ではありません。

そこで、河川水の水質環境を河川生態系の観点から、BODに加えての水質指標、付着藻類、底生生物で記述する方法を探るとともに、河川の生態系をより良い状態にするための重要な水質要因を明確にすることにより、自然本来の良好な河川水質とは何かを提示し、健全な生態系の保全を目指した今後の河川水質管理に役立てるため、河川整備基金事業により研究を始めることとなりました。

今般、9月1日に学識者10名からなる「河川における生態系と水質の相互的な関係に関する研究会」(座長：大垣眞一郎東京大学工学部長)の第1回研究会が開催されました。本研究は、平成15年度より2ヶ年の予定で進めることとしています。(担当：研究第2部)

## 富士川水系河川整備計画策定に向けた動きについて



富士川下流川づくり懇談会の討議風景

富士川では8月末から9月初旬にかけて、今年度第1回目となる「川づくり懇談会」が、4地区(富士川下流、富士川中流、釜無川、笛吹川)において開催されました。これらの懇談会は、安心して暮らせる地域、ゆとりのある地域をめざし、川と地域の個性にあった

川づくりのあり方についてご意見をいただくため、各地方自治体の長、市民団体、関係者をメンバーとして平成13年度に設立され、議論を深めてきたものです。

今回の会議において、当面は河川整備計画の策定をめざし、その後は当該地域の交流・連携に係わる様々な取り組みを進めていく場としての方向が示されました。

これらの懇談会における意見等を踏まえ、富士川の河川整備計画策定の推進母体となる第2回富士川河川技術検討会が10月9日に開催され、河川整備計画の原案が提示されました。(担当：研究第3部)

## 久慈川における河川整備基本方針、河川整備計画に向けた地域への取り組みについて

久慈川においては、昨年度に地元住民を対象に「久慈川たんけん隊」を5回実施するとともに、「久慈川流域懇談会」を開催し、久慈川に対する御意見を戴くなど、久慈川に対する理解を深めていただいたところです。

今年度は、関係機関における連絡会議、有識者による久慈川河川環境検討会、有識者及び市民による久慈川川づくり懇談会の実施が予定されており、河川整備基本方針・河川整備計画の策定へ向けた取り組みが本格化しています。(担当：研究第3部)

## 荒川下流における清流復活、水質浄化への取り組み

菖蒲川、笹目川の流域は、さいたま市、川口市、戸田市、蕨市の人口集中に伴い、生活排水などの汚れた水の流入により水質が悪くなり、川らしい環境が失われています。

このため、菖蒲川、笹目川は、平成13年8月に「第二期水環境改善緊急行動計画(清流ルネッサンス)」対象河川として選定され、流域全体でさまざまな水環境改善への取り組みを行うことを目的として、国、県、市の関係行政機関に加えて、これまでこの地域で活動してきた市民団体の代表も参加して、平成15年3月に「荒川水系菖蒲川・笹目川水環境改善緊急行動計画」を策定しました。

今後は平成22年の目標年にむけて、モニタリング計画を策定・調査し、水環境および生態環境の評価に加え、行動計画で策定した諸施策の進捗状況の確認を行う予定です。(担当：研究第3部)

## 「湖沼管理のための流動機構調査」 講習会開催

わが国の湖沼では、様々な水質問題が発生していますが、その解決を図る過程では湖沼の流動と水質の関係を十分に把握しないまま議論がなされてきました。そこで、湖水の入れ替わり、密度層の形成や変化などの湖沼の流動現象を十分に把握した上で水質の問題を議論していかないと問題現象を解決できないという考え方に基づいて、「湖沼技術研究会」(座長：広島大学福岡教授)が行われました。

今般、「湖沼技術研究会」のメンバーにより、これまで実施してきたわが国の代表的な湖沼における流動現象と水質や生物への影響に関する調査研究成果をとりまとめるとともに、湖沼の流動現象とその影響及び湖沼の流動調査技術の紹介を行い、今後の流動機構研究と総合的な湖沼管理のあり方について提言されたものが「湖沼管理のための流動機構調査」としてとりまとめられました。

湖沼の流動機構について体系的にとりまとめられた書籍は少なく、本書は、今後の湖沼の解析や管理に有効に活用できるものであるため、各地方整備局や各都道府県の担当者を対象に、9月3日に当財団で講習会が開催されました。(担当：研究第2部)

## 淀川水系桂川での工事に伴う オオサンショウウオ生息実態調査に ついて



今年の4月に淀川水系桂川の観光地として有名な京都・嵐山付近嵯峨地区で、オオサンショウウオが釣り上げられ地元紙で報じられました。この付近でオオサンショウウオが見つかることはときどきあり、その際は地元でもニュースになります。オオサンショウウオは国の特別天然記念物に指定されており、両生類の中では世界一大きくなります。この度、国土交通省淀川河川事務所では嵯峨地区において根固工事を行う予定であったが、オオサンショウウオの生息や繁殖の可能性も考えられるこ

とから、「嵯峨地区オオサンショウウオ生息実態調査検討会」を設置し、会の助言・提言を根固工事に反映させながら実施を図ることとなりました。調査検討会は座長には両生類の権威の松井正文京都大学教授、委員に森哲京都大学助教授および宮本淀川河川事務所長、オブザーバーに文化財行政の京都府および京都市の文化財保護課で構成されています。当財団では繁殖期および非繁殖期にそれぞれ2回ずつ、2月頃の幼生期に1回実態調査を行い、その結果を基に根固工事の手法や形状について調査検討会を通してとりまとめる予定です。

(担当：大阪研究所)

## 「子どもの水辺」大阪連絡会の 設立に向けて

『子どもの水辺』再発見プロジェクトが国土交通省、文部科学省、環境省連携で進められている中、今年5月30日に「子どもの水辺」大阪連絡会議が開かれ、二百数十名の参加者のもと活発な議論が行われました。会議は多くの参加者の情報交換の場になった一方で「討議の時間ももっと欲しい」、「さらに掘り下げた議論がしたい」等、会の継続を求める声が多数ありました。そこで大阪地区においては、コーディネーターに摂南大学工学部澤井健二教授、大阪工業大学工学部綾史郎教授、大阪府教育委員会事務局参事藤川博史氏を招き会を継続していくこととしました。

第2回目会議は8月25日に開催され約40名の参加者のもとで第1回目の意見や、今後の会議の性格や進め方について意見交換が行われました。1回目会議のアンケート調査によると多くの市民団体が抱えている課題の中心は活動場所不足、安全確保、指導者不足、情報不足であり、今後の会議では、それらの問題を中心に、また「子ども」というキーワードを中心として情報交換していきたいという希望が出されました。今年度中には大阪連絡会の設立会を行い、大阪府立水生生物センター施設等を利用した現場活動講習会等も計画していく予定です。なお、会の運営は当面は大阪府土木部、大阪府環境農林水産部、大阪府立食とみどりの総合技術センター、水生生物センター及び当財団で行う予定です。(担当：大阪研究所)



第2回目会議の様子 (H15.8.25大阪府農林会館)

## 世界子ども水フォーラム・フォローアップ in 広島が開催されました

「水じゃけん広島！～結べ！水ネットワーク～」を大会のキャッチフレーズにして、秋の深まりを感じる広島県の太田川源流の加計町で、10月11日から13日の3日間、全国の中学生、高校生とファシリテーターをつとめてくれた大学生等72人が集まり開催されました。この大会は、本年3月に開催された「世界子ども水フォーラム」に参加した子どもたち等からなる「子ども企画委員会」の意見や要望を尊重しながら大人たちの実行委員会がサポートする形の世代間の交流と協働を試みとしたものです。

参加した子どもたちは、常日頃水辺でのいろいろな体験活動を実践し、水への関心や意識が高く、活発な意見交換や専門家の助言を得ながらの議論が行われ、実行委員会を始め、参加された専門家の皆さんも感動してしまいました。そして、参加者全員で今後も継続していくことを確認し、無事大会を終えることができました。詳細は、今後、いろいろな機会でご発表してまいります。（担当：研究第1部）

## 川の博物館展示施設の充実

札幌市の北部に位置する、石狩放水路センターに併設されている川の博物館は、昭和60年に完成し、年月を経過しているため、展示施設の一部は老朽化していました。

そのため、展示施設の企画・検討を行い、設備更新を行うこととなりました。

施設は、パネル展示とゲームコーナー、映像上映コーナーからなり、平成14年度にパネル展示とゲームコーナーの更新を行いました。今年度は、映像コーナーのソフト作成を行い、機器の設置を行う予定です。



これらの施設は、川の歴史、川と人との関わり、川の自然環境など豊富な内容で、札幌市の小、中学校が、毎年総合学習に取り入れて見学にくるなど教育効果をあげています。

今回の展示施設更新で、さらに教育効果の向上が期待されます。（担当：北海道事務所）

## 「第1回 集まれ！水夢きっず」企画部門の夢実現する



子どもの水辺サポートセンターでは、「第1回 集まれ！水夢きっず」を企画し、小・中学生の水辺で行ってみたい夢（夢部門）、学校教員・市民団体が水辺で子どもに行わせたい企画（企画部門）のアイデア募集を行いました。

企画部門で水夢きっず賞を受賞した武生東母親クラブ・スマイル探偵団&ひまわり探偵団（福井県武生市）の企画は、「ペットボトルを使った川遊び（いかだ、もんどり作り）」でしたが、8月4日に福井県九頭竜川水系足羽川にて、その夢の実現を実施しました。当日は23人の子ども達が事前に造ったペットボトルのいかだに乗って川を下ったり、手作りのもんどり（魚の捕獲わな）を仕掛けて生物観察をしたりしました。サポートセンターでは、生物観察の講師の派遣や安全管理についてサポートを行いました。受賞者からは、「このような機会は二度とないと思います。」と好評でした。

現在、「第2回 集まれ！水夢きっず」の募集をしており、第1回と同様に夢部門、企画部門の水夢きっず賞受賞者の夢を実現する予定です。

（担当：研究第1部）

## 第3回 川に学ぶ体験活動全国大会 (徳島大会)開催



冷夏が嘘のような真夏の太陽の下で、第3回「川に学ぶ体験活動全国大会」が、徳島市で8月2日と3日の2日間開催されました。全国の水辺で活動している「川に学ぶ体験活動協議会(略称RAC)」の構成団体の会員の他、地元参加者も含め約400名が集まり、1日目は、日頃の活動事例発表後テーマ毎の分科会が行われ、指導者の資質向上や活動内容の充実・普及発展への取り組み等の活発な意見交換・議論がなされました。2日目は、吉野川の河川敷を会場とした「吉野川フェスティバル」と並行し、カヌーやEボート並びに安全講習等の体験活動が実践され、参加した皆さんは炎天下での日焼けが心配になるほど熱心に取り組んでいました。

この大会を通じて、川に学ぶ体験活動の理念の確認と意義を十分に理解し、子どもたちを楽しく安全に導くことが、「川で学ぶ」社会実現に向けては特に重要だということが再認識されました。また、「川に学ぶ体験活動協議会」としては、指導者育成のより一層の推進を図ることと、「子どもの水辺サポートセンター」との連携を図りながら普及啓発活動を展開していくことの重要性を再確認する場ともなりました。

今回の全国大会を機に、四国では「四国 川に学ぶ体験活動発表会」を継続実施する機運が高まっており、参加した会員のそれぞれの地域でのより活発な活動への取り組みがなされることが期待できる大会となりました。

## 「森と川と水源地のものがたり」 ミュージカル留萌公演の開催



10月14日18時30分から、留萌市文化センターで800人の観客を集め、1時間45分に亘ってミュージカル公演が行われました。

内容は、人々が水辺で暮らしていた縄文時代から、ダムに水を確保するようになった現代までを通じて、洪水の心配もせず、潤沢に水を使う快適な生活、時として、猛暑と水不足が直撃してパニックに陥った都市住民は、始めて水源に思いをめぐらし、「水はどこから生まれるのか」「水を守るのは誰か」、人と水のかかわりを観客にミュージカルで問いかけたもので、川と水の大切さがよく分かり多くの観客に感動を与えることができました。(担当：北海道事務所)

## 「川の生き物と環境を考える教室」 を開催



毎年、7月は河川愛護月間として各種の行事が全国的に展開されます。名古屋では市の中心部の久屋大通公園内に「さかえ川」という人工の川が造られており、この川を含んだ一体で毎年「なごや夏まつり」が開催されています。名古屋事務所も川に関する啓発コーナーを設けて毎年参加しています。

今年は、7月26日～27日にかけて河川愛護の普及のための活動をメインテーマに、国・県・市・NPO等関係者が連携して実行委員会を組織、「川をきれいに・みんなで考えよう・参加しよう」をサブタイトルとしました。当財団もファミリー層をターゲットとして、割り当てられたブースの名前を「川の生き物と環境を考える教室」とし、きれいな川に棲む魚・汚れても棲める魚・絶滅の恐れのある魚等木曾三川等を中心とした代表的な魚を数種類形づくり、釣り形式で釣ってパネルを見て参加者が回答し、楽しみながら覚えていただくコーナーとして実施しました。

最近、川に入って遊び、魚を捕まえることなど見かけなくなった中で、このような企画で少しでも子供達が川に関して興味を持ち、環境がいかに大切かということを少しでも理解してもらえる場となっていくことを願う次第です。

今後とも、子供の水辺活動のサポート・河川整備基金のPRを含めて川への見識を広めることに役立つものにしていきたいと考えています。

(担当：名古屋事務所)

## 「多摩川源流教室」開催

去る8月28日(木)、『多摩川源流教室』が、山梨県小菅村の多摩川源流域で開催されました。この催しは、多摩川の下流域の親子を対象に、川のつながりを考えていただく「上下流交流」の一環として毎年1回、夏休み期間中に多摩川流域協議会(1)の主催で行なわれています。

今回、沢登りを中心とした源流体験に挑んだのは、4歳の女の子から、72歳の健脚男性まで1名の参加者。インストラクターを務めてくださったのは多摩川源流研究所の中村文明所長です。始めは恐々と冷たい流れに足を入れていた母親たちも、小学生の男の子の元気さに引っ張られ、歩を進めるたびに楽しさが増しているようでした。

イベント終了後の感想では、「源流は自分の考えていた多摩川とは、はるかに異なる世界」「水が冷たい!キレイ!緑が多い!」など、実体験を通じ、川と自分の結びつき、源流との関わりなどに十分思いを馳せていただくことができました。

なお、この模様は、翌日のNHK『おはよう日本』でも放映されました。(担当:東京事務所)

1「多摩川流域協議会」...「多摩川をどう次世代に引き継いでいくか」の検討を目的とした、多摩川流域の33自治体と国土交通省京浜河川事務所で作成された協議会



## といかんべつ 問寒別川自然観察会の開催

8月28日、29日の両日、問寒別川において、自然観察会が開催されました。この観察会は、問寒別小学校の総合学習の一環として行われたもので、問寒別小学校高学年の生徒16名が参加しました。

内容は、毎年テーマを変えて実施されており、今年は川の地形と自然環境との関わりをテーマに行われました。全員で川の横断測量を行い、横断図を作成するとともに河岸、高水敷、堤防などそれぞれの場所の植生を調査し、その横断図にプロットし、場所によって植生が変化するのを観察しました。

参加した生徒は、初めての学習に熱心な取り組みを行うとともに、講師の説明を興味深く聞いていました。(担当:北海道事務所)



## 「海辺に親しむ 海岸を知り、楽しむためのガイドブック」発行

海、特に沿岸域のことについては多くの専門書にまたがって記述されているのが現状です。従って、一般の方々が沿岸域のことを調べるにあたっては、調べる内容がそれほど高度な内容でないにもかかわらず、これに関する正確な情報がまとまって取り扱われる本がないため、その調査・検索が難しい状況です。また、小中学校においては平成14年度より総合的な学習の時間が創設されていますが、子どもたちの素朴な疑問に応え、好奇心を満足させるに足る沿岸域に関する書籍がない状況です。

このような状況を踏まえ、海岸に対する広く一般の人々の理解を深め、子どもたちの素朴な疑問にも答え得るように、海岸を知り楽しむためのガイドブックを編集することとなり、7月20日に出版しました。読者対象は一般の方々とし、中学生が読める程度の難易度としています。

『海辺に親しむ ~ 海岸を知り、楽しむためのガイドブック』

A5判 / 148頁(カラー100頁、モノクロ48頁) / 定価2,200円(税別)

監修:財団法人河川環境管理財団

編著:「海辺に親しむ」編集委員会

発行:株式会社山海堂

(Tel 03-3816-1618)

(担当:研究第1・2部)



## 第10回 河川整備基金助成事業 成果発表会の開催

河川整備基金助成成果発表会は、助成事業の成果ができるだけ多くの関係者の方々に共有の財産として広く活用されるとともに、助成事業の一層の充実に寄与することを目的に開催しています。

発表会は、これまで平成5年度から平成14年度までに9回行われており、いずれも多数の方々の参加を頂き、発表者と活発な意見交換により大変有意義な会となっています。

本年度も10月30日(木)と31日(金)の2日間、ダイヤモンドホテル(東京都千代田区一番町25)において第10回河川整備基金助成事業成果発表会を開催します。

皆様のご参加をお待ち申し上げます。(参加無料)

10月30日(木)受付開始9:00 開会9:40

1. 川の生態環境に関する調査・研究  
座長 名古屋大学 辻本哲郎 教授
2. 水環境に関する調査・研究  
座長 山梨大学 砂田憲吾 教授

10月31日(金)受付開始9:30 開会10:00

3. 川と地域社会に関する調査・研究  
座長 立命館大学 江頭進治 教授
4. 指定課題助成研究(河川環境の評価手法に関する研究)  
司会 (財)河川環境管理財団 山本晃一 研究総括職
5. 河川の特性を活かした環境教育の展開をめざして  
座長 富士常葉大学 山田辰美 助教授

(担当:研究第1部)

## 河川整備基金事業「栄養塩類濃度が河川水質環境に及ぼす影響に関する研究」成果発表会の開催について

河川整備基金による事業として、平成13年度から2年間にわたり、「栄養塩類濃度が河川水質環境に及ぼす影響に関する研究」を実施してきました。本研究では、河川水中に増加しつつある栄養塩類について、河川の親水性や水生生物への影響度を解明し、将来の課題を踏まえて、今後の河川水質管理への提言をとりまとめました。

この度、本研究成果を広く活用していただくため、下記により発表会を開催し、その成果を執筆者の方々に報告していただくとともに、参加者の方々と討論を行い、この分野の調査研究の一層の進展を図ることと致しました。是非皆様御参加下さい。

1.開催日時:平成15年11月7日(金)

13:30~17:30

(受付開始 12:50)

2.開催場所:ダイヤモンドホテル

本館 地下1階サファイヤルーム

参加申込、問い合わせ先:(財)河川環境管理財団  
研究第1部 高橋  
研究第2部 渡辺(拓)

## 第23回 川の写真コンクール 表彰式及び展示会の開催

川の写真コンクールは、河川愛護の思想を広く一般の方々に啓発するため、河川愛護月間行事の一環として、昭和56年を第1回として開催し、今年で第23回を迎えることになりました。

主催は、国土交通省関東地方整備局と(財)河川環境管理財団で、次世代を担う関東地方の小、中、高校生を対象として「川の写真」を広く募集し、写真家の長野重一氏、福島武氏及び佐々木崑氏の方々に審査をして頂いております。

応募作品は、6,370点と回を重ねるごとに増加してきております。

なお、この行事の実施にあたっては、管内の都県教育委員会、読売新聞社、NHK、コダック(株)を始め関係の方々のご理解とご協力を頂いております。

また、今年は表彰式会場を東京駅に近い東京商工会議所で実施することとしております。

これからの予定は、次のとおりです。

- ・表彰式 11月16日(日) 東京商工会議所  
国際会議場(7階)
- ・展示会 11月16日(日)~19(水)  
JR東京駅丸の内北口ドーム  
翌年1月13日(火)~23日(金)  
宇都宮市役所  
翌年2月7日(土)~29日(日)  
さいたま川の博物館

また、来年も素晴らしい数多くの作品が、寄せられることを期待しております。(担当:東京事務所)

## 河川環境展'03に出展

河川環境展2003が11月25日(火)~28日(金)の4日間、千葉県幕張メッセで開催されます。

当財団では、'98から続けて6度目の出展をします。専用ブースでは、水質浄化関連コーナーや河川環境学習コーナーを設けます。また、環境教育ミュージアムとして設けられる広場では、水辺での環境学習や体験活動に関する各種プログラムを展開する予定です。

水質浄化関連コーナーでは、水質浄化技術の仕組み及び小中学生にも分かりやすい水質判定方法などの体験ができる内容とします。また、河川環境学習コーナーでは、当財団内に設置されている「子どもの水辺サポートセンター」と水辺での活動を実践できる指導者の育成を図っている「川に学ぶ体験活動協議会」の活動状況を紹介します。

環境教育ミュージアムでは、来場した小中学生にプロジェクトWETによる水に関するいろいろなアクティビティの体験をしてもらうことを予定しております。

(担当:研究第1部兼子どもの水辺サポートセンター、研究第2部及び研究第3部)



『新刊発行』案内

河川水理学エンジニア・マニュアル

A判 184頁 増刷費用 1,000円(消費税・送料込)  
アメリカ合衆国陸軍工兵隊から了解をいただいて、当財団が翻訳したものです。本書は、河川における開水路の流れを解析するための基本原則と技術的手順を示す実務者必携の図書です。

図説 河川堤防

(財)河川環境管理財団 研究嘱託 中島秀雄 著 A5判 240頁 定価 4,935円(税込) 著者紹介価格 4,300円(税・送料込) 技報堂出版(03-5215-3165)

河川堤防について、我が国のみならず外国との関係を含めて、堤防の歴史とそれの抱える問題、また最近の堤防はどのような技術的根拠で設計されているかを説明し、施工も含めてより安全な堤防の設計法についてとりまとめた実務者必携の図書です。

護岸・水制の計画・設計

(財)河川環境管理財団 研究総括職 山本晃一 編著 B5判 368頁 定価(本体5,800円+税) 山海堂(03-3816-1618)

現在まで行われてきた護岸・水制の実態を踏まえ、現在持つ技術情報を土台とし、必要とされる性能規定についても提案し、計画・設計出来るようにとりまとめた実務者必携の図書です。

河川整備基金にご協力ありがとうございます

300億円をめざして造成を続けております。

お陰様で、河川整備基金の造成は、平成15年4月から9月までに約1千4百万円余のご寄附を頂き、9月末で約280億円余となっております。これも一重に皆様方のご協力の賜と感謝しております。

基金は、皆様の幅広いご理解、ご協力を得て300億円をめざして造成を続けております。

今後とも、引き続き、ご協力よろしくお願い申し上げます。

イベント等で募金箱が必要なときは、当財団にお申し付け頂ければお送りさせていただきます。

なお、募金箱の募金の回収及び寄付金の送金につきましては、ご連絡頂ければ、当財団から回収に伺い又は振込用紙を送付させていただきます。(担当：総務部)

財団の体制

現在の体制は下記のとおりです。  
今後ともよろしくお願い致します。

|                    |   |                   |
|--------------------|---|-------------------|
| 理事                 | 長 | 和里田 義雄            |
| 常務理事               |   | 池田 東雄             |
| 常務理事               |   | 藤 芳 素 生           |
| 理事                 |   | 仁 科 英 磨           |
| 理事                 |   | 山 本 雅 史           |
| 相談役                |   | 梅 野 康 行           |
| 顧問                 | 問 | 鈴 木 藤 一 郎 (10月就任) |
| 研究顧問               | 問 | 吉 川 秀 夫           |
| 研究顧問               | 問 | 芦 田 和 男           |
| 研究顧問               | 問 | 江 川 太 郎           |
| 研究顧問               | 問 | 佐 々 木 寧           |
| 研究顧問               | 問 | 山 口 甲             |
| 研究嘱託               |   | 中 島 秀 雄           |
| 研究総括職              |   | 山 本 晃 一           |
| 技術参与               |   | 佐 藤 和 明           |
| 総務部長               |   | 松 下 寿 彦           |
| 企画調整部長(兼)          |   | 藤 芳 素 生           |
| 河川環境総合研究所長(兼)      |   | 芦 田 和 男           |
| 研究第1部長(兼)          |   | 山 本 雅 史           |
| 研究第2部長             |   | 岸 田 弘 之           |
| 研究第3部長             |   | 赤 羽 忠 志           |
| 研究第4部長             |   | 戸 谷 英 雄           |
| 大阪研究所長(兼)          |   | 芦 田 和 男           |
| 研究第5部長             |   | 辻 山 正 甫           |
| 子どもの水辺サポートセンター長(兼) |   | 山 本 雅 史           |
| 東京事務所長(兼)          |   | 戸 谷 英 雄           |
| 北海道事務所長            |   | 吉 岡 紘 治           |
| 名古屋事務所長            |   | 奥 田 一 巳           |
| 大阪事務所長             |   | 阪 本 信 弘           |

編集発行



財団 河川環境管理財団  
法人

編集事務局 03(3297)2617  
<http://www.kasen.or.jp/>

本部 〒104-0042  
東京都中央区入船1-9-12  
TEL 03-3297-2600 FAX 03-3297-2620  
E-mail: info@kasen.or.jp

河川環境総合研究所・東京事務所 TEL 03-3297-2644 FAX 03-3297-2677  
E-mail: info@kasen.or.jp

子どもの水辺サポートセンター TEL 03-3297-2608 FAX 03-3297-2609  
<http://www.mizube-support-center.org/>  
E-mail: msc@mizube-support-center.org

北海道事務所 〒060-0061  
札幌市中央区南一条西7丁目16-2(岩倉ビル)  
TEL 011-261-7951 FAX 011-261-7953  
<http://www.kasen.or.jp/hokkaido/>  
E-mail: info-h@hkd.kasen.or.jp

名古屋事務所 〒450-0002  
名古屋市中村区名駅4-3-10  
TEL 052-565-1976 FAX 052-571-8627  
<http://www.kasen.or.jp/nagoya/>  
E-mail: info-n@nagoya.kasen.or.jp

大阪事務所 〒570-0096  
大阪府守口市外島町4-18(守口フィットネスリゾート内)  
TEL 06-6994-0006 FAX 06-6994-0095  
<http://www2.kasen.or.jp/>  
E-mail: koheh@osakaj.kasen.or.jp

大阪研究所 〒540-0008  
大阪市中央区大手前1-6-4(はなビル7F)  
TEL 06-6942-2310 FAX 06-6942-2118  
E-mail: info-o@osaka.kasen.or.jp